

## H29. 5. 23 東淀川区区政会議 第1回魅力あるまちをつくろう！部会 学習会 議事概要

※枠内は委員・議員意見、枠外は区役所職員

日時場所 平成 29 年 5 月 23 日(火)午後 7 時から午後 9 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 魅力あるまちをつくろう！部会委員 6 名、他部会委員 1 名、府議會議員 1 名

### 議題 1：新たな将来ビジョン・平成30年度運営方針に向けて

- ・将来ビジョンは、区役所が今後 5 年間に実施する、区長の所管する事業（区役所が出来る範囲のこと）の施策展開の方向性を示すもの。
- ・区政会議でも議論していただきたい。6月部会で素案、9月部会で案について取り上げる。

### 議題 2：魅力発信の取り組みについて報告（区役所）

#### ●大阪経済大学との連携

- ・学生が多い特徴を活かせないかという部会の意見から、平成28年度より大阪経済大学と連携して地域の魅力発掘事業実施。昨年度は区内企業、今年度は大桐地域活動協議会と連携。

#### ●東淀川区魅力発信プロジェクト（仮称）

- ・東淀川区の魅力を知ってもらうため、実行委員全員の企画発表。クイズ大会、歴史を使った魅力発信、B級グルメ、学校のグラスバンドを活かした音楽のまちフェスの開催等の提案が出ている。次回6月に実行するものを決めていく。

#### ●異次元交流ライブ

- ・課題を持つ各地域と地域貢献に関心を持っている企業や団体、学生、地域が情報交換、意見交換できる場を設け、ウィンウィンの関係を目的に実施。交流が生まれてきている。

#### ●We Love 東淀川

- ・横のつながり、ネットワーク作りが目的であり、地域づくりの入門編という位置づけ。
- ・テーマを絞っていないので気楽に参加していただいている。

### （区民まつりについて）

- 昨年、当部会から 2 名、区民まつり企画委員会に入らせてもらい改善の提案をしたが、今のところ進捗が伝わってこない。どうしていくのか。
- 地域の高齢化等の問題もある。パレード参加しない決断をした地域も。何らかの改革が必要。30年度の変更では遅い。マンネリ化し参加率低下する危機感は多くの人を持っている。
- 予算や調整の少ない変更ならすぐできるのでは(クイズ大会など)。総踊りは残してほしい。
- 変えてほしい人・現状維持を望む人双方おり、じっくり話し合うことが必要。
- 運営方針に「区民まつりの実施」だけでなく「どうするか考えていく」の文言も必要では。

- ・区民まつりに新たな意見をいただきたいという趣旨で入っていただいたが、大きな転換は難しい。地域からの実行委員も皆さん意見が異なる。長いスパンで各地域と話し合っ進めていきたい。また、1月頃の地域の予算編成に合わせないといけない。
- ・業者委託のまつりにすれば内容を変えられるが、地域主体のまつりであることで警察からこぶし通りの道路封鎖の許可がされている状況もある。一回やめると復活も難しい。

**(地域活動協議会と新たな担い手について)**

- 地活協単位だけでなくもっと細かくするものと大きく複数と一緒にするものとメリハリを。
- 運営方針の「自助・共助」「向こう三軒両隣」のためにコミュニティづくりの見直しが必要。  
団体・企業と地域のニーズを結びつける深くつなげるような事業や事例共有をしてほしい。
- 地活協と連合の関係がうまくいかない地域もある。
- 地活協はお金や人がない。やはり町会の協力体制がないと活動できない。また町会に入らない人が増えたが歯抜けの町会では防災や防犯もできない。住民側も窓口がわからないので町会に入るきっかけづくりが必要。町会加入していないと情報が入りにくい。
- 町会は経費も少ない。町会費を取らない方が組織率が上がるのでは。

- ・「We Love 東淀川」「異次元交流ライブ」、また新たな「魅力発信プロジェクト」などを切り口にして徐々につながりや事例が広がっていくようにしたい。
- ・防災マップは地活協が全戸配布した。民生委員で災害時要配慮者のリストも今作成中。町会加入未加入は関係ない。
- ・地活協は予算決算を区役所で把握しているので活動内容がわかるが、任意団体の町会はわからない。

## 東淀川区区政会議 魅力あるまちをつくろう！部会 議事概要

※枠内は委員意見

日時・場所 平成 29 年 6 月 29 日(木)午後 7 時から 9 時。東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 魅力あるまちをつくろう！部会委員 6 名、他部会委員 1 名

**議題 1 平成 28 年度東淀川区運営方針自己評価**

**議題 2 東淀川区将来ビジョン（たたき台）及び平成 30 年度取組みの方向性について**

**議題 3 市政改革プラン 2.0（区政編）（素案）について**

**議題 4 今後の取組みに向けて（ワークショップ）**

- ・課題を踏まえ、5 年後にめざすべきこと
- ・そのために今できること

### 自助・共助を担う地域力の向上班

（課題をふまえ、5 年後にめざすべきこと）

- 隣近所の顔が見えるまち、挨拶ができるまち、みんなが参加し助け合えるまち、イベントなどおもしろいまち、こどもが元気に遊んでいるまち、声をあげられない人の声も聞けるまち。
- 見守り・青パトも高齢化、うまく世代交代するシステムが必要。取組なくなっては勿体ない。
- 日中働きに出る人が多い。企業が地域と見守りなど、今までの枠組み以外も拡大を考えては。
- 区ホームページを見る人少ない。検索ワードがわからないと必要な情報になかなかとりつけない。見るのは特定の人が多い。広く見てもらうのは難しい。

（そのために今できること）

- 挨拶から始める。見守りをしている大人と子どもが会話をすることでつながるきっかけになる。
- 自分の世界を持ち地域から離れる 20~30 代へのアプローチ、家庭を持ち地域に帰ってくる 30 代をまちにつなげる、イベントがあり、システム化がされていけば声かけがしやすい。
- こども 110 番は、認識が低くなっている。町会が把握に回り、こどもたちに伝えることが課題。隣近所の顔が見えるところにつながり、子育て・防犯面でも重要。
- 商店街が多い・団地が多いなど地域によって特色は違い、町会の力も違う。その地域に合った取組みをしていくこと。地域の特性に応じた区役所の細かい支援が必要。
- 町会に入っている人にしかその特典が見えない。活動などの情報も伝わらない。活発化するには、重要性やどういうことをしているかの説明が必要。
- こども食堂や学習支援が必要な人にどうやって自然に興味をもち気軽に参加してもらえるか。きっかけづくりが必要。

- ・町会の仕組みを知らない人が多い。入って得な部分が多いことや町会費がこんな事業になっているという活動の紹介が重要。地域が立ち上げているホームページやフェイスブックに町会単位で情報をまとめてもらい、区役所の HP から飛ぶような仕組みが一番わかりやすい。
- ・隣近所の顔をつなげることについては、挨拶運動から広げていけないかと考える。

## にぎわいのあるまちづくり班

(課題をふまえ、5年後にめざすべきこと)

- お年よりも子どもも元気なまち。安全な遊び場として学校開放。コンビニの活用。年配の方と子どもが一緒に集える場所。
- 自然の中で遊べる河川公園の強化。公園整備、歩道橋や信号設置などのアクセス向上、大きなイベントなどソフト面も必要。
- 緑化整備。開発中の高架下に緑化公園をつくるなど。
- 子どもが楽しめる大きなイベント。B級グルメなど。
- 犯罪の減少。特に多い女性犯罪の減少。
- 道を整備し散歩しやすくして、椅子を置き、皆が外に出ていくようなまち。バリアフリー。

(そのために今できること)

- 淀川に行きやすくし子どもが集う場にするため道路の整備や信号など足りない部分を洗い出す。
- 夢の公園・夢の淀川など、子どもからアイデアを集める。
- 大きなイベントを実施するなど人が集まるようなことを考える。
- 女性犯罪の減少。
- 子どもと高齢者が一緒に交流できる場所をつくる。
- 港町でしているように、河川敷に全国からオブジェを募集して設置しては。

- ・淀川は東淀川区にとって一番活用等していける場。だが、多くの車が走るところを子どもが渡れるアクセス改善、信号の設置が必要。関係機関との調整ができればいい。
- ・女性に対する犯罪の対策必要。地域とともに改善に取り組みたい。

## 議題5 今後の区政会議スケジュール

## 東淀川区区政会議 魅力あるまちをつくろう！部会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 7 月 27 日(木)午後 7 時から 8 時。東淀川区役所 2 階 201 会議室

出席者 魅力あるまちをつくろう！部会委員 5 名

議題 1 (仮称) 東淀川区将来ビジョン～2022 年に向けて～ (素案) について

議題 2 平成 30 年度取り組みの方向性について

(にぎわいについて部会で話し合ってきたことについて)

- にぎわい(子どもが元気なまち・イベント・区民まつり活性化)が重要だと思う。
- 大きく分けて河川・子ども・防犯等々の3つに分かれるのでは。
- 区民まつりの活性化もあるが、区をあげた魅力あるまちづくりの大きなイベントが必要。それが区民まつりなのか別のイベントなのかはこれから。
- 部会が取り組んだ魅力発信プロジェクトだが、魅力を発見することも大事なので「魅力発見・発信プロジェクト」では。

(情報発信について)

- 魅力やにぎわいという部分で情報発信が重要。
- ほかの部会で出た意見もつなげ、取り組みや課題などいろんな情報を集約して情報発信・啓発をする仕組みづくりが必要。地域を越えた取り組みも区全体・まち全体で応援する。
- 地域の団体と活動したいと思っている人をつなげるために地域活動などさまざまな情報を集約して発信していく
- 地域とのつながり、年配の方や子どもとのつながり、地域から離れている人とのつながりなど、年齢や立場を問わずいろんな人をつなげるために情報発信が必要ということ。
- 発信することで新しい担い手につなげて、担い手・地域力につながるということも必要。
- 今やっている取り組みをまずは知ってつなげるからこそが、結果、情報発信となって新たな担い手をつくり出すことになる。

・情報発信については、区役所でも地域でも仕組みは既にできていて実践(発信)している。既にある仕組みをうまく活用していくようにしていく。